

小説「津軽」の旅～
昭和19年春、太宰は津軽地方を旅します。



太宰治と旅する津軽

今年、作家太宰治が生まれて百年を迎えます。これを記念して、様々なイベントが県内で開催されます。また、来年12月には、東北新幹線全線開業により、青森からその先の津軽の旅が、より気軽に楽しめるようになります。太宰の作品を片手に、春の津軽路を旅してみませんか。

龍飛
ここは、本州の袋小路だ。読者も銘肌(めいき)せよ。北端の宿で太宰は童女が歌う手毬歌の可憐な歌声に希望を感じます。

三厩
「登って見ようか」N君は、義経寺の石の鳥居の前で立ちどまった。義経寺には、義経と弁慶が蝦夷へ渡る際立ち寄ったとの伝説が残されています。

小泊
私も、いつまでも黙っていたら、しばらく経ってだけは、まっすぐ運動会を見ながら、肩に波を打たせて深い長い溜息をもらした。たけも平気ではないのだな、と私にはその時はじめてわかった。太宰の幼少時子守だった越野たけとの30年ぶりの再会を果たします。

蟹田
「蟹田ってのは、風の町だね」太宰は、観瀾山で友人N君たちと花見をします。

金木 (太宰の生誕地)
津軽では、梅、桃、桜、林檎、梨、すもも、一度にこの頃、花が咲くのである。

青森市
津軽鉄道「走れメロス号」

深浦
この港町も、千葉の海岸あたりの漁村によく見受けられるような、決して出しゃばろうとせぬつつましい温和な表情、悪く言えばお利巧なちゃっかりした表情をして、旅人を無言で送迎している。太宰が泊まった宿は現在「太宰の宿 ぶかうら文学館」として一般公開されています。

龍飛崎

義経寺

観瀾山

小説「津軽」の像

太宰の宿 ぶかうら文学館

小説「津軽」から引用

現代の「津軽」の旅お薦めコース

現代の津軽の魅力を伝える旅のコースを県民から募集したところ、次の3コースが優秀作品として選ばれました。

- 1 津軽半島再発見 今昔の旅**
縄文から現代に至る歴史や伝説などに触れられる観光スポットと、青函トンネルや旬の海の幸、山の幸など津軽の「今」を満喫する旅。
小泊(徐福の里公園)、三厩(義経寺)、平館(松前街道)市浦(歴史民俗資料館)、木造(縄文住居展示資料館)など。
- 2 津軽半島の食と文化の旅**
蟹田のホタテ・ゲクリガニ料理、今別のもじょううどん、龍飛の海鮮料理を味わいながら、津軽半島をぐるりとめぐる旅。太宰も好物の蟹やシャコを堪能しています。
蟹田(観瀾山)、今別(霞月海岸)、龍飛、金木など。
- 3 太宰と志功の故郷をめぐる旅**
太宰と志功という本県を代表する二人に触れ、料理も二人ゆかりの物(太宰の鯛と志功の鱈)にこだわった、津軽全域をめぐる旅。
青森(酸ヶ湯、棟方志功記念館、浅虫温泉)、十和田(奥入瀬)、津軽半島、弘前(岩木山麓)など。

問 東青地域県民局地域連携部 ☎017-734-9412

県民参加型演劇公演「津軽」

太宰の小説「津軽」を題材に、太宰の地元で、県民も出演する演劇を上演します。太宰と彼の文学を生んだ本県の風土に光をあてる県民参加型のイベントとして、全国に向け情報発信します。6月18日、斜陽館での制作発表後、出演者の公募を開始する予定です。

■公演日程:9月2日(水)～6日(日)(予定)
■会場:津軽鉄道芦野公園駅特設会場

問 実行委員会(県民生活文化課内) ☎017-734-9207

「太宰治生誕100年記念事業」-太宰の誕生日6月19日にちなんで-

- 太宰治生誕百年祭式典 6月19日(金) 13:30～14:45 五所川原市金木町芦野公園「太宰治文学碑」前
- 記念フォーラム 6月20日(土) 8:45～12:15 五所川原市ふるさと交流国民センター
- 「走れメロス」マラソン 6月21日(日) 9:00スタート ゲスト 福士加代子選手
- 太宰治生誕百年記念展示会 4月24日(金)～ 立佞武多の館2階 美術展示ギャラリー

問 五所川原市教育委員会 ☎0173-35-2111(代)

外ヶ浜太宰会

小説「津軽」のN君の地元である蟹田では、太宰文学愛好者ら約50名が集まり「外ヶ浜太宰会(石田悟会長)」を結成、太宰やN君の足跡を次世代に伝えるため、当時を知る人からの聞き取り、資料の収集などを行っています。中央公民館内には、会員が収集した太宰を支えた人たちの資料や「津軽」登場人物の写真などが常設展示されています。



県観光情報HP <http://apti.net.pref.aomori.jp/>

観光に関するお問い合わせは 新幹線交流推進課 ☎017-734-9384